

海外招聘教員との共同研究等活動記録 ～「新長崎学研究関連資料の活用に向けた分野横断・学際的共同研究」～

朝鮮大学の金龍燮(キム・ヨンソプ)教授は2023年8月16日(水)に来崎。

18日(金)から19日(土)にかけて、藤本健太郎(国際コミュニケーション学科准教授)が代表を務める共同研究事業「新長崎学研究関連資料の活用に向けた分野横断・学際的共同研究」の一環として、対馬市内に出張した。

両日にかけて対馬市内のフィールドワークを実施するとともに、訪問先の一つである長崎県立対馬歴史研究センターでは、対馬藩の文化史・教育史に造詣の深い研究者から対馬藩において初めて朝鮮語教育を実践した雨森芳洲が設立に貢献した朝鮮語学校の学則である「韓語稽古規則」を閲覧、解説を受ける機会に恵まれた。あわせて対馬市内の教育史を詳説した『厳原町教育史』など、韓国教育史・語学史関連の重要文献に関する情報を数多く収集することができた。

帰崎後の21日(月)から24日(木)にかけては、本学の春学期集中講義として「NICS 特別演習B」を担当いただいた。専攻分野の韓国教育史に留まらず、1950年代以降の韓国における文化・芸能など幅広い分野について、視聴覚資料などをふんだんに用いながら充実した講義を展開されており、受講生たちの興味関心を惹きつけている姿が印象的であった。

28日(月)には再び共同研究事業に関する打ち合わせに参加された。金教授と藤本のほか6人の研究者とともに本学新長崎学研究センターの収蔵する資料の活用に向けて、教育史研究者としての立場から数々の助言をいただいた。

30日(水)までの来崎期間中、金教授から本学の研究・教育活動に関して多大なる貢献を賜ったことに対し、この場を借りて御礼申し上げるとともに、これを契機として、引き続き朝鮮大学校と本学との間で研究・教育上の交流が促進されることを願う次第である。

文責:藤本健太郎(国際コミュニケーション准教授)



対馬歴史研究センターにて文献を調査する金龍燮教授(右)